

相生通りにおけるカミハチキテルの社会実験について

1 要旨・目的

相生通りを中心に活動するエリアマネジメント団体である「カミハチキテル」(民間企業を中心に、行政・大学等も含め39団体が参加)が、令和4年9月から12月に、公共空間等を活用した社会実験“#カミハチキテル3-URBAN TRANSIT HUB-”を行った。

2 社会実験「#カミハチキテル3」の概要

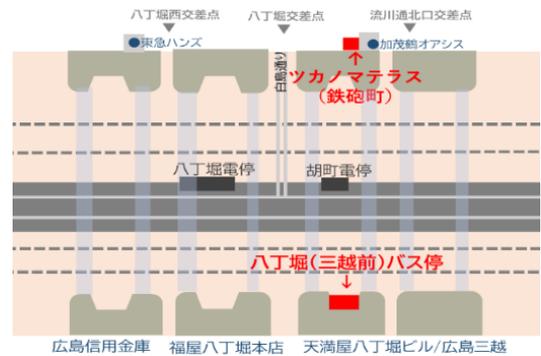
(1) 実施期間

令和4年9月1日から12月19日

(2) 実施内容・場所

相生通りを“ひと”中心の通りとなることを目指し、「ひとが居心地よく歩きやすいストリート空間」とはどういう場所かを検証するため「都市空間での時間の過ごし方」をテーマに次の取組を実施。

期間中に実施したまちなかフォーラムでは今後の活動に反映させるため、街頭アンケートも行い、その結果も含め社会実験の検証・分析を進めている。



ア 京屋ビル跡地(鉄砲町)での取組(9/1~10/31)

目的	<ul style="list-style-type: none"> ○「人が歩いて居心地の良い空間」を創るための効果的な滞留空間のあり方を検証 ○壁面を活用した広告の導入可能性の検証
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○休憩スペースとなるツカノマテラスを設置 ○屋台でコーヒーなど飲食店の出店 ○ひろしま市現代美術館とアートコラボした椅子・テーブルを設置 ○suiko*によるライブドローイング等



* 広島を拠点に世界各国で壁画制作を行うアーティスト。おりづるタワーの壁画制作にも参加。

イ 八丁堀(三越前)バス停での取組(10/1~12/19)

目的	<ul style="list-style-type: none"> ○バス待ち環境の変化を検証 ○バスペイをストレート化することによる交通状況への影響を検証
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ○百貨店前の人の滞留と車の通行が多いバス停のバスペイをストレート化し、バス待ち空間を拡幅 ○歩行者・自転車・バス待ちをデザイン的に仕分け、ウッドデッキ・ベンチを設置



3 今後の取組

カミハチキテルでは、今回の社会実験の結果の検証・分析を進めるとともに、今後も社会実験や市民フォーラム等を実施し、将来像[※]の検証・改善や地権者・事業者・市民等の共感者の増加を図りながら、将来像実現を目指し取組を推進していくこととしており、本県も、広島市や広島都心会議とともに、活動を支援していく。

※ カミハチキテルでは将来像を紙屋町・八丁堀エリアを世界のさまざまな社会課題を解決し、新たな文化を創造する小規模なスタートアップが集まるアジアの中心都市のひとつに成長させる「Prototype City」とし、相生通りのトランジットパーク化などを目指し、様々な取組を行っている。

【参考：カミハチキテルのこれまでの取組等】

平成 31 年 3 月 紙屋町・八丁堀を中心に都心全体を「ひとのための都心空間」とするため、「紙屋町・八丁堀エリアマネジメント実践勉強会」立ち上げ、相生通り周辺エリアの将来像検討、市民フォーラム及び社会実験等の取組開始。
※令和 2 年 5 月には「カミハチキテル-HEART OF HIROSHIMA-」を立上げ。

令和 2 年 3～4 月 相生通りにおける
公共空間等を活用した社会実験を実施
「カミハチキテル - URBAN TRANSIT BAY -」



令和 3 年 1～3 月 基町クレド前における
広場空間を活用した社会実験を実施
「カミハチキテル 2 - URBAN TERRACE -」



令和 3 年 10 月 これまでの 2 回の社会実験で得た結果を踏まえ、相生通り周辺エリアの将来像[※]として「カミハチミライデザイン Ver. 0.5」を取りまとめ。

※ カミハチキテルでは将来像を紙屋町・八丁堀エリアを世界のさまざまな社会課題を解決し、新たな文化を創造する小規模なスタートアップが集まるアジアの中心都市のひとつに成長させる「Prototype City」とし、相生通りのトランジットパーク化などを目指し、様々な取組を行っている。

